

普及活動検討会実施報告書

大河原農業改良普及センター

実施月日：令和4年 3月

実施場所：書面による評価

1 検討内容

No	検討項目
	<ul style="list-style-type: none">令和3年度普及活動成果について <p>【令和3年度→令和4年度継続】</p> <p>プロジェクト課題No.1「令和元年東日本台風被災農地の復興に向けた担い手確保」</p> <p>プロジェクト課題No.2「中山間地域農業を担う新たな営農体制の構築」</p> <p>プロジェクト課題No.3「担い手の確保・育成による果樹産地の維持発展」</p> <p>プロジェクト課題No.5「機械化一貫体系の導入によるたまねぎ産地の拡大」</p> <p>【令和3年度完了】</p> <p>プロジェクト課題No.4「新しい生産技術の導入によるいちごの産出額向上」</p> <ul style="list-style-type: none">令和4年度普及指導方針（案）について令和4年度普及活動計画についてその他 <p>※新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み書面での外部評価とした</p>

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	1
若手・女性農業者		学識経験者	1
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討項目 令和3年度 普及活動成 果について	4.3	<p>本年度の成果については、継続課題でありましたが、毎年の指導支援が実って成果が出たと思います。</p> <p>また、昨年4月の果樹への凍霜害については、いち早く対策を行い(助成事業等)、果樹生産に繋がった。若手後継者の就農増加にも繋がった。</p> <p>(白戸委員)</p> <p>指導は良くされていると思われる。</p> <p>農家の人達がどこまで作業日誌を付けているのかの確認が必要</p> <p>集落営農組織の中には廃業しているところもあるので、その原因を調べてみるべきと考える。</p> <p>(高橋委員)</p>	<p>集落営農組織の育成については、構成員の方々が組織の中で果たすそれぞれの役割や、記録の作成を始めとした組織運営の方法を十分理解できるように、専門家の支援も受けながら指導をしていきます。</p>

蔵王のいちご生産は目に見えて向上しており、今後も期待できる。

高齢者でもできるように、不耕起栽培で重労働作業は軽減されているが、収穫作業も重労働だと思うので、高設ベンチの導入も更に進めば良いと思います。

(佐藤委員)

全体的に、生産者に寄り添い、しっかりとした支援活動ができていると思う。

念願の農業組合法人が設立されたとのこと。担い手確保の手段としての策であると思う。

他のプロジェクトも共通の課題であるが、これらの農業が他職種の方々や若い世代にとっても、いかに経済的に安定していて、社会的意義のある産業になり得るかを示す必要があると思う。優良事例も研究しているようであるが、地域特有の背景もあると思うので、俯瞰的に考えることが大切である。

東日本台風からの復旧に関しては、時間がかかることではあるが、生産者の皆さんのモチベーションを保ちつつ、課題に取り組むことは大変である。普及センターの皆様への努力に敬意を表す。

(横山委員)

水田の高度利用、集落営農による法人化の推進、担い手の育成、新しい生産技術の導入と現在、農業の抱える課題解決への取り組みが進められていると感じました。

(村上委員)

令和元年東日本台風被災農地の復興について、農地復興に伴い今後も園芸生産振興を進めてほしい。

古関ファームについては、令和4年度にブロッコリー80aを作付け予定でJAグループでも生産資材の一部助成を計画しているので、課題でもあった品質の安定化に向けて取り組みを強化してほしい。

たまねぎ産地拡大については、動画による栽培概要を作成し新規の栽培者の掘り起こしを頂き大変助かりました。次年度は課題にもあった腐敗等の品質改善についてご指導をお願い致します。(櫻井委員)

農業技術の普及指導については、高齢化の進行という現実も踏まえて、省力化、軽労化という視点に立った技術の導入にも努めていきます。

担い手の育成確保については、他地域の優れた事例も参考にしながら、地域の事情を十分に勘案した取組を進めてまいります。

今後とも、市町や各関係団体との連絡を密にしながら、農業と農村の課題解決を図るための普及活動を続けていきます。

当普及センターでも園芸振興は最重点課題のひとつと捉えており、各品目の生産拡大や品質の安定に向けた活動を集中的に展開してまいります。

ブロッコリーやたまねぎ等の転換畑を活用した園芸生産については、ほ場の排水対策や生産者の防除技術向上等、残された課題の解決に向けて次年度の普及活動を続けてまいります。

<p>検討項目 令和4年度 普及活動計 画について</p>	<p>4. 2</p>	<p>令和4年度についても継続課題であるが、生産性向上と良品率アップと技術の向上、また後継者育成・確保が一番の課題である。 (白戸委員)</p> <p>安心安全を担保に、ワンランク上の食材提供に対する取り組みを期待する。 (高橋委員)</p> <p>昨今の自然災害の被害からの復旧も進んでいるとのことと安心しました。その他の取組についても成果が見られつつあるので、計画終了時には良い結果が出るのではと期待しています。 (佐藤委員)</p> <p>継続した取組が多いので、ブレることなく、しっかりと生産者を支えて行って欲しい。 多様化する需要に対応した生産・販路拡大の取組支援。既存の組織に頼るだけでは、これからの時代は厳しいと思うので、他の業種の技術やサービスを上手く取り入れていく必要があると思う。 (横山委員)</p> <p>令和3年度から継続するプロジェクト課題の最終年度となります。次のステップへ移行するために、とても重要な年となると思います。 (村上委員)</p> <p>継続普及プロジェクトについては、引き続き課題解決に取組み、普及拡大に取り組んで頂きたい。 (櫻井委員)</p>	<p>農業者の所得確保に直結する、農産物の品質向上に向けた現場での技術指導に努めていきます。</p> <p>東日本台風による被災農地については、復旧工事の進展に合わせた作物の作付指導等を進めてきましたが、今後は担い手の確保も最重点の課題として、解決に向けた普及活動を続けてまいります。</p> <p>次年度のプロジェクト課題については、今年度の課題を継承し、指導対象の目標達成を支援して、その成果を他地域に向けた波及へと繋ぐ活動となりますので、活動内容の充実に努めます。</p>
---	-------------	--	---

<p>その他</p>	<p>女性が活躍できる情報の発信を望みます。 (高橋委員)</p> <p>地産地消は生産者だけでなく消費者にとっても良いことなので、若いときから高齢になるまで一人でも多くの方が作り続けられる環境ができるといいですね。 (佐藤委員)</p> <p>コロナ禍と自然災害(果樹凍霜被害)で、今年度もご苦労が多かったと思う。生産者の皆様に頼りにされている普及センターならではの活動に期待している。 (横山委員)</p> <p>今後は、観光振興や公共交通対策などと同様に、市・町の枠を超えた取り組みが農業振興にも必要ではないかと考えています。 今後、みやぎ仙南農業協同組合と連携した事業展開は不可欠ではと思います。 (村上委員)</p> <p>当組合ではたまねぎ生産拡大について、令和4年度に新たな機械を導入し、圃場での早期乾燥を促し品質向上に取り組む予定です。引き続きご支援下さいますようお願い致します。 (櫻井委員)</p>	<p>普及センターでは農村の女性や高齢者等、多様な人材が活躍できる農業生産の環境が実現するための支援を今後とも続けてまいります。</p> <p>みやぎ仙南農業協同組合を始めとした各団体や、宮城県農業経営相談所等の組織と協力し、地域農業の推進に有効な活動となるよう努めます。</p>
------------	---	--